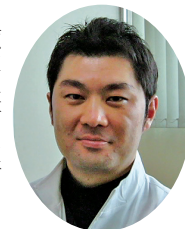


医師に聞く専門性の高い医療

頭をけがした時の対処 「出血に慌てずに様子を しっかり観察しましょう」



脳神経外科 吉山 道貫 先生(月～土担当)のお話

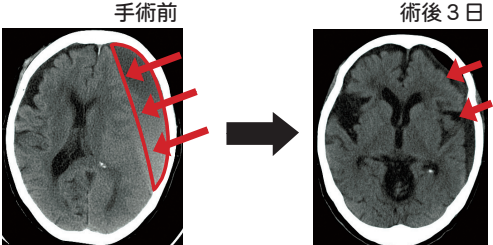
頭皮は体の皮膚のうちで最も血管が多いので、ちょっとした傷でも出血します。顔や服に血が垂れると、大出血のように見えますが、致命的な大出血は非常にまれなので、慌てないことが大切です。まずは圧迫止血をしましょう。頭の傷を覆うように清潔な布を当て、傷の周囲を強くおさえます。止血ができれば、以下の症状があるか、観察して下さい。「意識がおかしい(目を見てしっかりと話ができない)」「頭痛や吐き気、嘔吐がある」「手足の動きが悪い」「手足や

顔の「内出血」の方が問題です。「内出血」は少量でも血腫となって脳を圧迫するからです。頭のけがで問題なのは、「脳の損傷」です。「意識がおかしい」「嘔吐」「けいれん」などの症状は脳の損傷によるものです。「頭がい骨骨折」も、脳が傷つかなければ、それ自体はそう心配なものではありません。残念ながら、専門医でも、診察だけでは内出血の有無は判断できません。頭部CT等で内出血を確認する必要があります。受傷後24時間以内に、特に症状が出なければ大丈夫ですが、1つだけ心配なのは、慢性期(安定している時)に起こる「慢性硬膜下血腫」という病気です。これは頭や顔を軽くぶつけた後、しばらくたってから脳の表面に血液がたまる病気です。「歩くときにふらつく」「物忘れがひどくなる(いわゆる認知症)」といった症状が見られます。CTやMRIといった脳の断層写真で簡単に診断でき、軽症のうちには手術をすれば非常に良くなる病気です。心配な方は受診することをお勧めします。

慢性硬膜下血腫の治療

頭部外傷から数週間～数ヵ月後に、脳の表面に血液がたまる病気です。お年寄りや飲酒量の多い方、血液がサラサラになる薬を飲んでいる方に多く見られます。頭がい骨に小さな穴を開け、そこから管を入れて、たまった血液を洗い流します。

脳の断層写真(CT)



赤い三日月形の部分が血腫。矢印の方向へ脳を圧迫している。 血腫を取り除いたところ、脳への圧迫がほぼ改善された。

取材協力
医療法人 財団報徳会
西湘病院
院長 原 俊介
小田原市扇町1-16-35
0465-35-5773
<http://www.seishou.or.jp>

取材協力
* 吉山道貫 / 2003年 東海大学医学部卒。